

蜂谷戸防災かわら版

第4号

自分の命は自分で守ろう！

「近助」と「自守防災」！

平成26年4月5日

小川自治会

蜂谷戸支隊

情報・広報班

今回は第4号をお届けします。只今防災に関するアンケートを実施しております。お手数ですが、回答にご協力いただきますようお願いいたします。集計・分析した結果を今後の防災活動に反映させていきたいと思っております。

自主防災隊の活動報告

<自主防災隊全体の活動>

3月 2日 救出・救護班専門部会主催の救出・救護訓練実施

3月16日 隊長・支隊長会議開催（組織検討PT検討結果、活動マニュアル、安全ノート改定案他）

3月22日 防火・消火班専門会議第5回開催（自宅消火器の充実の結果・街頭消火器3月末の決着）

<蜂谷戸支隊の活動>

3月 7日 定例支隊長会議開催（26年度の優先課題、アンケート実施、行動手順書他）

3月23日 支隊長・班長会議開催（25年度活動報告、26年度活動計画、班別防災活動と行動手順書他）

ご存知ですか？…防災豆知識

<飲料水の備蓄はどれ位必要？>

・答えは、「1人1日3ℓ」です。

・これは、災害時に人が平均的に必要とする飲料水の量です。（洗い物等の生活用水は別）

・普段は食事から1ℓ前後の水分を摂取できるため、直接飲む量は2ℓ位で十分なのですが、災害時は食事から摂取できる水分が減るのでこれだけの飲料水が必要なのです。

・震災時トイレを減らすため水分の摂取を控えた結果脳疾患の患者が増えた例があります。

・この飲料水には、お茶や野菜ジュースは含まれますが、ビールやお酒は含まれません。

・年令と体重からもっと詳しく算出できます。

<体重1kg当たり1日に必要な水分量>

・乳児 150mℓ ・幼児 100mℓ

・学童 80mℓ ・成人 50mℓ

<家族4人が1日に必要な水分量>

・夫（体重70kg）×50mℓ=3.5ℓ

・妻（体重50kg）×50mℓ=2.5ℓ

（夫婦2人の合計6.0ℓ。7日間で42ℓ）

・息子（小学生30kg）×80mℓ=2.4ℓ

・娘（小学生20kg）×80mℓ=1.6ℓ

家族合計1日10ℓ。7日間では70ℓ必要。

*ダイエットすれば水の備蓄量も減らせる？

耳より！…役に立つ防災ノウハウ

<飲料水備蓄の工夫>

・夫婦2人だけでも、7日間で42ℓ、2ℓ入りペットボトルだと21本が必要で、正直これはかなり大変です。

1. 水道水を活用する

・水道水をペットボトルやポリタンクに入れ、循環させて普段使用しながら備蓄します。空気が残らないようボトルの口元迄キッチリ水を入れるのがポイントです。

・水道水は塩素を含んでいる為3~4日は保つようです。

2. もっと大量の飲料水を備蓄する方法

① ウォーターサーバーを活用する

・ウォーターサーバーのタンクを数本余分に備蓄し、循環させて使用する。1本12ℓ。4本だと48ℓ備蓄可能。

・1本1300円~1900円。電気代月350円~千円。（メーカーにより別途サーバー代が必要なケースもあり）

② 「エコキュート」等深夜料金を利用した電気給湯器を活用する（電気・ガス代を節約しながら防災対策にもなる）

・お湯を貯めるタンクの容量が370ℓ~550ℓと大きいので一気に大量の水を備蓄できます。

（メーカーにより違うが、総費用80万円~120万円）

3. 雨水や古い水道水を濾過・消毒して使用する

・雨水タンクの雨水や古くなった水道水を、浄水器を使って濾過・消毒して飲用にします。

・ストロー型浄水器（能力100ℓ）2600円（町田東急ハンズ）

・携帯本格浄水器（セイシエル、能力380ℓ）7600円（同上）